



「技術の伝承」 ～匠の技を次世代へ～

メーカーOBが自らの持つ「技」を学生に伝授する。皆様はそういったボランティア活動をご存じだろうか。

「マイスタークラブ」と呼ばれるその集団は、本田宗一郎氏の下で共に働いた技術者やF1のマシン作製に携わった一流の職人がつどい、自らが持つ技術を学生へと継承している。

その数総勢15人。未来の自動車業界を担う若人を鍛える、ボランティア活動を取材した。

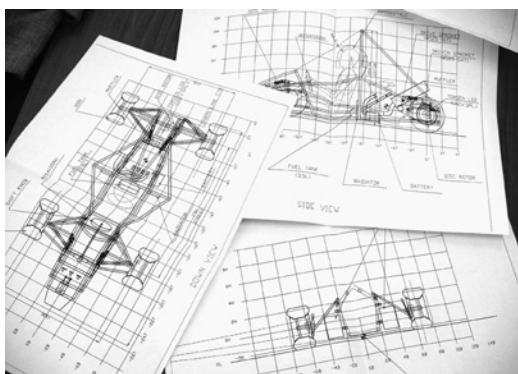
◀マイスタークラブのみなさん。遠方から教えに来るといふ。もちろんボランティア活動である。

ツインリンクもてぎ。栃木県茂木町の緑豊かな山の中に位置するこの施設は、子供から大人まで気軽に楽しめる体験施設や、参加型モータースポーツプログラム、Hondaの50年にわたる歴史を綴る名車の展示館、21世紀の夢を発信する未来の技術展示施設を擁する総合レジャー施設である。

…その中にある、シャッターの閉まった小さな棟で技術の継承は行われていた…



皆様はドイツのマイスター制度というのをご存じだろうか。



自動車の設計の基礎から教授するマイスタークラブ。コンピューターのみに頼らない、アナログ手法での設計が基本であり、それこそが最も重要だと語ってくれた。



女性も熱心に講習を受けていた。「女性は器用で、溶接がうまいんです」とのこと。

が講師となり、「Formula SAEチャレンジ講座」と称して座学によるクルマづくりの基礎講座から、溶接や加工などの実技講座、実際に車両を作るフレーム製作講座などを開催している。まさに自動車製作のマイスター制度だ。



「学生達に雲の上の人と思われては、教え難いんですよ」マイスタークラブの会長を務める森久男さんは照れくさそうに語る。森さんは本田宗一郎氏と共に働き、また、世界にHondaの名を知らしめたF1のマシン作製にも関わった技術者OBでもある。

学生にとっては、森さんをはじめとするマイスタークラブの面々は皆、自動車創りの「神様」のような存在だ。しかしながら、決してマイスタークラブメンバーはおごることはない。まるで自分の子供を教えるかのような姿勢で学生と向き合っている。



学校では自動車の製作に付随する実務作業は教えてくれない。専門学校の自動車科であっても専用機材や工具がないところが多いという。こういった現実をふまえ、工房に機材を用意し技術者の育成に対応できる体制を作っている。

若い技術者の習得速度は速い。最初はおぼつかない溶接作業も、すぐにスムーズかつ綺麗に仕上がる、その上達速度にはマイスタークラブの面々も驚きを隠せないという。

わが国の自動車製造技術も過去一世紀半の間、予想を越える発展をとげ、その裾野は限り



普段、授業では教わる機会のない溶接を基礎から教わる。F1マシンを作製した職人から直に教わるチャンスは、ここ「マイスタークラブ」にしかないだろう。

ない広がりをもつようになった。技術進歩は過去の延長線上にあるという事実を考慮すれば、先人からの貴重な技術の継承が今後の日本自動車業界にとって大きな振興のバネになると確信できる。

こういった活動を行うボランティアが未来へ与える影響は我々が想像するよりも大きいのかもかもしれない…。

マイスタークラブの講師がお手本を見せ、学生が実際に作業をし、技を習得する。

